

激戦を勝ち抜いたCMSC勢、オールスターに集結!



JMSダートツアーシリーズ最終戦 オールスターダートトライアル'88

11月19日～20日 奈良県 名阪スポーツランド

ハイパワー&ハイポテンシャルを武器に、今シーズンのダートトライアル界に一大旋風を巻き起こしたギャランVR-4。全国各地で行なわれた競技会で、数多くの勝利を勝ち取ったギャラン。その中にCMSCクラブ員の名を見かけることの多かった1988年。そのシーズンを締めくくる恒例のオールスターダートトライアルが、11月19～20日、奈良県の名阪スポーツランドにて開催された。

このオールスター戦は、全国8地区のシリーズ戦を闘い抜いた上位ドライバーと、各地を転戦して行なわれたツアーシリーズの上位陣のみが参加を許される大会。

今回のオ10回大会には、CMSCより、A地区チャンピオン、CMSC帯広の青沼達也選手、B地区チャンピオン、CMSC福島の鈴木功敏選手、C地区チャンピオン、CMSC山形の砂塚明男選手の3選手に加え、ツアーシリーズでの大活躍が目立ったCMSC群馬の荒井信介選手の4名がAIIクラスの出場権を得、晴れの舞台に立った。

全国の強豪が集まるオールスター戦の AII クラス

は今シーズンの傾向を反映してか、その参加車両の多くがギャランVR-4。ギャラン同志の激しいバトルを勝ち抜いたのは、D地区の榎田正文選手。今回ベストテンは、ほぼギャランが独占する形となり、CMSC勢では福島の鈴木選手が10位に入る健闘を見せた。

また、このオールスター戦は、全7戦で行なわれるツアーシリーズの最終戦も兼ねており、CMSC群馬の荒井選手が、AIIクラス、シリーズ5位に、またCM

SC帯広の青沼選手が8位に、それぞれ決定し、シーズンの幕を閉じた。



↑好走を見せた鈴木ギャラン



↑帯広の青沼選手



↑ツアーシリーズで大活躍の荒井選手



↑B地区チャンプ・鈴木功敏選手



←砂塚選手はC地区代表



←荒井選手はシリーズ5位



シーズン最後のトライアルに44台が集結し盛大に開催

CMSC帯広 コルトダートトライアル 10月31日

毎年、北海道の年度を締めくくるコルトダートトライアルですが、今回は、前日にうっすらと雪が降り、コース上は真白という状態。オフィシャル全員でコースとパドックの整備を必死で行い、何とか競技を開始しましたが、1トライ目の途中あたりから、コースは雨にたたられたこともあってドロ沼と化し、全ては1トライ目で勝負が決ってしまいました。

三菱車5台がエントリーした4WDクラスでは、1トライ目に借り物のランサー4WDで参加した十川選手が、ぶっち切りのトップ。このタイムには、新車のギャランを持ち込んだ井馬選手も歯が立たずに、クラス4位。札幌から遠征の佐々木ギャランも8位と振わず、さすがのギャランも弟分のランサーに完敗。結局十川ランサーのタイムは改造車クラスにも破られずの総合ベストラップ賞までモノにする活躍でトライアルは終了しました。

(レポートCMSC帯広 青沼達也)



↑ギャランを喰った十川ランサー



↑見事総合優勝を決めた十川選手



↑三菱賞2位。井馬ギャラン



↑地元CMSC帯広の伊吹選手も力走

四国でもギャラン旋風が吹き荒れる

CMSC香川 '88BDSCダートトライアル 9月25日 香川スポーツランド

四国ダートトライアル第9戦、「'88BDSCダートトライアル」が、ボギーダートスポーツクラブとCMSC香川の共催という形で行なわれました。

当日は、雨にたたられたものの77台が参加。ゲストに山内伸弥選手を迎えての大会となりました。ここ四国でも、ギャランVR-4の旋風が吹き荒れ、今回もAIIクラスに5台のエントリーがあった他、ミラージュ4WDも初参加。結果は、やはりギャランが強くAIIクラスの田中和雄選手が悪コンディションの中、見事に優勝を決めました。

なお、CMSC香川では、来年もダートトライアル2戦に加え、久々のラリーを1戦開催する予定でありますので今後とも、ご協力ご支援をよろしくお願ひします。

(レポートCMSC香川 平尾高王)



↑AIIクラス優勝の田中和男選手



↑四国でも人気のギャラン



↑前走を務める山内伸弥選手

千田俊二選手(CMSC札幌)4年連続のチャンピオンを逃す

JMRC北海道ラリーチャンピオンシリーズ第7戦 10月16日 RTCラリー-in SHINTOKU

ひと足早く、シーズンのファイナルを迎える北海道ラリーシリーズの最終戦は、秋晴れの中ディラリーで開催された。マシンは60台のフルグリッド、内Cクラスには22台が参加した。北海道のラリーシリーズでは、CMSC札幌の千田選手が3年連続のCクラスチャンピオンとなっており、今シーズンも逆転優

勝のチャンスは濃厚。SS-1、SS-2とトップタイムをマークしたのは千田選手。ところが続くSS-3で力が入りすぎたのコースオフをしてしまい2位との差を詰められてしまう。そして、第4SSでレストコントロールタイムの申告ミスをしてしまい逆転優勝の望みは断たれてしまった。結局優勝はポイントリーダーの鈴木昭江選手、CMSC勢では、札幌の横山宏選手が4年ぶりのラリーながら5位に入賞する活躍を見せた。



↑借しくもV4を逃した千田選手

青沼達也選手 (CMSC 帯広) シリーズを決める

JAF A地区地方スピード 行事選手権第9戦

10月2日 '88AG・MSC北海道ダートトライアル

ダートトライアルのA地区選手権の最終戦は、10月2日、スポーツランド砂川に85台のエントラントを集め開催された。AⅡクラスでは、CMSC帯広の青沼

達也選手が、優勝候補の最右翼。その期待に応えて1本目1分56秒89でトップをキープ。そして2ヒート目、ギャランの中村公則選手が1分49秒75を出して逆転。勝負ありと思ったところ、すかさず1分48秒28をだし抜き返し優勝をさらった。青沼選手は9戦のシリーズ中3勝をマークする活躍でシリーズチャンピオンを決定。また、CMSC札幌の小肩秀紀選手もシリーズ5位に入賞した。



↑A地区チャンプを決めた青沼選手

砂塚 (CMSC 山形)・荒井 (CMSC 群馬) 両選手が大活躍

JAF C地区地方スピード 行事選手権第8～10戦

9月11日 ISCC THE TRIAL
9月25日 トライアル・ド・ニッポン
10月9日 コルサ・ダートアタック'88

CMSC山形の砂塚明男選手と群馬の荒井信介選手が、好ライバルぶりを発揮したのが、ダートトライアルのC地区戦。9月11日行なわれた第8戦ISCC・ザ・トライアルでは、悪天候を苦にせず、砂塚選手が優勝。荒井選手も3位につけ、ライバル戦はスタート。続く第9戦、またしても最悪のコンディションの中、砂塚選手が優勝。荒井選手は2位となり、砂塚選手の2連勝。そして迎えた最終戦のコルサ・ダート・アタック'88では、砂塚選手が優勝を逃し4位。ここぞとばかりに意地を見せた荒井選手は2位に入る、



↑砂塚ギャランと↓荒井ギャラン



好バトルを展開。シリーズ成績では、砂塚選手がチャンピオン、荒井選手は5位となり全日程を終了。来シーズンも好ライバルのバトルが楽しみなC地区戦となった。



◎第8戦ISCC・ザ・トライアル

順位	ドライバー	車名	タイム
1位	砂塚 明男	ギャランVR-4	1'34'72
2位	湯本 敬	ブルーバード	1'35'31
3位	荒井 信介	ギャランVR-4	1'36'11

◎第9戦トライアル・ド・ニッポン

1位	砂塚 明男	ギャランVR-4	1'43'80
2位	荒井 信介	ギャランVR-4	1'55'12
3位	湯本 敬	ブルーバード	1'55'40

◎第10戦コルサ・ダートアタック'88

1位	湯本 敬	ブルーバード	1'23'26
2位	荒井 信介	ギャランVR-4	1'24'16
3位	長井 茂	ギャランVR-4	1'24'59
4位	砂塚 明男	ギャランVR-4	1'24'69

館山正嗣選手 (CMSC 青森) 東北シリーズチャンピオンに

JMRC東北ラリーチャンピオンシリーズ第5戦 9月10～11日 第6回ベルナルサマラーリー

東北ラリーシリーズの最終戦「第6回ベルナルサマラーリー」は、43台のエントラントを集め、青森県浅虫温泉をスタートし、八甲田山、大和山、を通り、月見野サーキットへ至る200kmのコースで行なわれた。

同シリーズにはCMSCの青森、山形、仙台の各支部から多くの選手がエントリーしている。中でも、BクラスのCMSC仙台、奥山高志選手、CクラスのCMSC青森、館山正嗣選手には、シリーズチャンピオンの座がかかった重要な大会。ラリーは、両クラスとも、チャンピオン争いを演じる両選手がトップを快走し、



第1ステージを終了。

明暗が分かれたのが、第2ステージのラリー区間。館山ギャランは、永沢選手の見事なナビゲーションでリードを広げるものの、奥山ミラージュは、逆転され2位となってしまふ。そして、最後の月見野サ



←館山選手→奥山選手

ーキットでのSSでは、スタート早々バーストしてしまった館山選手だが2番手タイムで上り、逃げ切りの優勝でシリーズチャンプを決める。一方の奥山選手も追い上げを見せたものの2位となり、惜しくもBクラスのシリーズ優勝を逃してしまふ。

INFORMATION

CMSC全国大会の日時決定

本格的なモータースポーツシーズンの開幕の前に毎年行なわれる、恒例のCMSC全国大会が、今年も2月25、26の両日、静岡県御殿場市で開催される。

今回も、各支部の代表による活動報告、ディスカッションに加え、88CMSCチャレンジカップの表彰式等が初日に行なわれる。また2日目には、富士スピードウェイ内にあるジムカーナコースに於て、新型ランサーターボによるジムカーナ練習会が行なわれる予定。



無冠の帝王、金田 至選手死去

「ラリー、ダートラ、そして最近ではレース」と幅広く活躍していた、CMSC山形の金田至選手が、11月14日午前2時50分頃、山形県長井市内において、事故により29歳という若さで死去されました。

今シーズンは、東北ダートトライアルシリーズで3連勝をマーク、シリーズチャンピオンを確実視され、また、CMSCチャレンジカップのスラローム部門でもトップに立っただけに残念としか言いようがありません。ご冥福をお祈りいたします。



小川日出生選手 (CMSC 山形) ポールtoフィニッシュで初優勝

ミラージュカップ東北シリーズ最終戦

9月10~11日 西仙台ハイランド

ミラージュカップ東北シリーズの第4戦は、仙台市郊外にある西仙台ハイランドにて9月10・11の両日開催された。最終戦ということもあってか、CMSCからも6台のエントリーがあり、各クラブのサーキット熱の高さを物語っていた。

決勝に先立って行なわれた予選で、見事ポールポジションを獲得したのが、CMSC山形の小川日出生選手。また本部の加藤元章選手は5位、埼玉の清水潤選手も8位に入り、CMSC勢の上位入賞が期待された。決勝は激しい雨が降りつける中に行なわれ、スタート直後に一台がスピン。これに7台が巻き込まれるアクシデントとなりレースは再スタート。しかし、加藤、清水の両選手に、山形の金田至選手は、クラッシュのダメージが大きく残念ながらリタイアして

本 Panasonic F3選手権シリーズ第7戦 -Land JAPAN F3 CHAMPIONSHIP R VICIG 奥州VICIG 宮城テレビ放送(MMT) エフエム仙台



しまう。8周で再スタートしたレースは、ポールポジションの小川選手が、そのまま走り切りシリーズ初優勝。栃木からエントリーの川口法行選手、地元仙台の今野広志選手も、7位、8位にそれぞれ入賞した。また小川選手は、この勝利でシリーズポイントを一気に伸ばし、シリーズ2位の荣誉に輝いた。



↑CMSC山形 小川日出生選手



↑CMSC山形 金田至選手



↑CMSC栃木 川口法行選手



↑CMSC埼玉 清水潤選手

絶好調の小川選手。フレッシュマンで大殊勲

ミラージュカップ フレッシュマンシリーズ最終戦

10月22~23日 筑波サーキット

東北シリーズに比べ、ハイレベルな戦いが繰り広げられるのがフレッシュマンシリーズ。筑波の最終戦には、東北シリーズでの優勝で波に乗る小川選手を始め、川口法行、清水潤、加藤元章の各選手がチャレンジした。

さすがにフレッシュマンのレベルは高く、各選手と

も予選の順位は思うようには、上らずじまい。しかし、ひとり気を吐いたのが小川選手。レース功者の中にまじっての堂々の予選2位で決勝へと進んだ。決勝のスタートで、ポジションをひとつ下げた小川選手であったが、慎重な走りで見事トップを狙いつつ、10周目に勝負。ついにトップに浮上すると、強豪の追い上げをふり切り、東北シリーズに続いて、フレッシュマンでも優勝をさらう、大金星を上げた。



↑川口法行選手



↑加藤元章選手

↑小川日出生選手

CMSCチャレンジカップ 最終コーナーへ

いよいよ大詰めを迎えた'88CMSCチャレンジカップの11月までの集計がまとまったのでお伝えしたい。まずクラブ別ポイントでは、大量リードの山形がオールラウンドの活躍で、今期も233ポイントを稼

ぎ独走の982ポイント。2位の236ポイントを稼ぎ585ポイントとした群馬も、もはや及ばずの状態、次にラリー部門では館山選手が本領を発揮しトップに躍り出る活躍を見せている。そして、もう一つ激しい

トップ争いを演じているのが、好調のスラローム部門。一時の不調から立ち直った荒井選手が、149ポイントを稼ぎトップに帰り咲いた。尚、表彰式は、2月の全国大会の席上行なわれる。

●クラブ別獲得ポイント

	1~5月	6~8月	9~11月	12月	合計
帯広	71	212	160		443
札幌	129	254	10		393
青森	104	250	82		436
山形	267	482	233		982
仙台	20	80	30		130
福島	181	223	103		507
栃木	54	43	106		203
群馬	196	153	236		585
埼玉	11	26	67		99
岐阜	26	22	16		64
島根	77	108	140		325
香川	96	96	40		136

●ラリー・ドライバー部門

館山 正嗣	青森	139
塩野谷浩光	群馬	124
吉川 幸彦	札幌	116
千田 俊二	札幌	104
大西 康弘	青森	92
奥山 高志	仙台	88
長沢 太郎	埼玉	77
福士 文秀	青森	54
菅野 茂	福島	40
金田一直志	青森	36

●ラリー・ナビゲーター部門

佐藤 忠宜	福島	186
永沢 裕之	青森	113
葛西 一省	青森	60
内田 昭雄	群馬	46
若林 和昭	群馬	24
益子 友幸	栃木	23
巻口 実	札幌	20
青木 功	栃木	19
三田 行男	埼玉	16
本田 弘	岐阜	12
本田 辰彦	岐阜	12

●スラローム部門

荒井 信介	群馬	329
青沼 達也	帯広	246
砂塚 明男	山形	218
杉山 敏夫	山形	187
金田 至	山形	180
鈴木 功敏	福島	150
佐藤 信一	福島	144
杉坂 啓一	島根	124
白井 修	香川	114
小肩 秀紀	札幌	104

●レース部門

小川日出生	山形	148
清水 潤	埼玉	16
並木 松雄	栃木	15
稲見 孝雄	栃木	15
相沢 いく	埼玉	12
川口 法行	栃木	8
今野 広志	仙台	8
新井 一男	群馬	4
佐藤 政一	仙台	4

●ポイントのつけ方

	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	11位以下	リタイア
ポイント	A 40	30	24	20	16	12	10	8	6	4	2	0
	B 20	15	12	10	8	6	5	4	3	2	1	0

A = ラリー………全日本選手権、JMRC地区最上級シリーズ
スラローム……全日本スピード行事選手権、地方スピード行事選手権、JMSシリーズ
レース………全日本選手権、地方選手権、ミラージュカップ
B = それ以外の競技会